



未来を切り拓く力の育成を見据えた教育

伊丹市立総合教育センター
所長 永嶺 香織

謹んで新年のお慶びを申し上げます。本年もどうぞよろしく
お願いします。

オミクロン株が出現するなど、新年を迎えても、新型コロナ
は一向に収束しそうにありません。今年も学びを止めないため
に、創意工夫による教育活動が求められます。



皆さんは、OECDが2015年に立ち上げた「Future of Education
and Skills 2030 project（教育とスキルの未来2030プロジェクト）」をご存じでしょうか。これは、
2030年に成人となっている子どもたちに求められるコンピテンシーやその育成に必要なカリキュラ
ムなどを示したものです。

その中に示された「学習の枠組み」に注目しますと、知識、スキル、態度・評価といったコンピテ
ンシーに加え、私たちの社会を変革し、未来を作り上げていくために必要なコンピテンシーとして、
「新たな価値を創造する力」、「対立やジレンマを克服する力」、「責任ある行動をとる力」を重要
な力と定義しています。また、このような変革を起こすためのコンピテンシーとして、「見通し・行
動・ふり返り」といった連続した学習過程を身につけることの必要性が示されています。

現在、目の前にいる子どもたちは、間違いなく、AI（人工知能）の発展や社会の多様性の増大等急
速な社会の変容の中を生きていかなければなりません。本報告書は、将来を見据え、現在の教育を推
進する上で、学習指導要領のねらいと重なるところもあり、とても参考になるものです。

学習指導要領が求める「資質・能力」を育成するためには、それぞれの校種の教員が、子どもたち
の将来像を共通理解した上で、各校種において発達段階に応じた教育活動を行っていくことが不可欠
です。もう1つは、あまりにも社会の変化が激しく、教育課題も山積する中で教育活動を推進してい
くためには、教科のつながりや教職員同士のつながり、子ども同士のつながり等「横のつながり」と、
幼児期から高等学校までの「縦のつながり」を大切にした教育を推進していくことが大切です。

3つの資質・能力を育成するために

必要な資質・能力を育成するためには、幼児期から高等学校におけるそれぞれの発達段階に応じた学習活動を行うだけでなく、幼児期における資質・能力がどのように育成されているかを理解し、小学校以降の教育に円滑につないでいくことが求められています。

教育活動のつながり

幼児期の教育及び義務教育の基礎の上に高等学校卒業以降の教育や職業、**生涯にわたる学習とのつながり**を見通しながら学習の在り方を展望していく

教職員のつながり

合同研修会、情報交換会、保育・授業参観の実施

子どものこれまでの学びをどう捉えているのか、何を大事に育もうとしているのかを具体的に伝える。
→単に「何をしているか」だけでなく、そこで**「どのような学びがあるのか」を言語化**して示す。
また、**学校全体で1年生の育ちを援助する**という共通認識をもち、協力体制を整える。

子ども同士のつながり

行事への参加

ボランティア活動や体育行事、文化行事に参加したり、年間行事として合同開催したりすることで、子ども同士の交流を図る。

①幼児期において育みたい資質・能力

知識・技能の基礎

遊びや生活の中で豊かな体験を通じて、何を感じたり、何に気づいたり、何が分かったり、何ができるようになるのか

それぞれの資質・能力を個別に育成するのではなく、**遊びを通しての総合的な指導**を行う

学びに向かう力・人間性等

心情、意欲、態度が育つ中で、いかによりよい生活を営むか

思考力・判断力・表現力の基礎

遊びの中で気づいたこと、できるようになったことなども使いながら、どう考えたり、試したり、工夫したり、表現したりするか。

②5領域のねらい

【健康】

健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活をつくり出す力を養う

【人間関係】

他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、人と関わる力を養う

【環境】

周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う

【言葉】

経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養う

【表現】

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、想像力を豊かにする

③幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

(5領域のねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿)

- ・健康な心と体 ・自立心
- ・協同性 ・社会生活との関わり
- ・道徳性、規範意識の芽生え
- ・数量や図形、標識や文字への関心、感覚
- ・思考力の芽生え
- ・自然との関わり、生命尊重
- ・言葉による伝え合い
- ・豊かな感性と表現

学びがゼロからスタートするのではなく、**幼児教育で身に付けたことを生かしながら教科等の学びにつなぎ**、子ども達の資質・能力を伸ばしていく

④幼児期に育成された資質・能力を円滑につなげるための手立て

円滑につなぐための教育課程

・学ぶ子どもの視点に立ち、**合科的、弾力的な時間割の編成**を行う。
→子どもたちの姿をもとにした時間割・行事を考え、全職員の協力のもとに実施する

「育っている」ことを前提にした適切な援助

・子どもたちの**主体性が発揮されるような援助**を工夫する
→最初から大人が指示・介入するのではなく、前段階での育ちを発揮できるような課題を投げかけ、力が発揮できたときには価値づけすることで主体的に活動する素地を養う

異校種間のつながりを重視した実践例と成果

幼児期

5才児にとって小学校が「過ごしやすい、安心できる場所」として実感が湧き、**小学校への入学が楽しみ**になった！

1年生が5才児を意識しながら活動することで「**頼られる存在**」であることを実感できた！

5才児と1年生の交流会を年間行事に位置づけ、1年間に3回実施。交流会前後には、**連携会を実施**し、計画する。

【事前】「育ってほしい姿」や活動の内容、相互のねらいを共有。

【当日】活動を通してみられる姿から育ちや学びの「**つながり**」を見取る。

【事後】活動中の「**実際の姿**」と事前の「**育ってほしい姿**」を照らし合わせながら**意見や情報を交換**する。

小学校

児童生徒の**自己有用感の向上**や**中一ギャップの解消**に成果が上がっている！

小中学校で「**授業規律**」や「**学習環境**」を統一するために**合同の部会**を編成。また**小中合同の異年齢交流行事**を各校の年間計画に位置付けて実施。

- ・運動会での異年齢合同種目
- ・職場体験報告会への参加
- ・部活動体験
- ・昔遊び交流
- ・地域合同清掃 等

中学校

交流授業を通じて中・高教員が双方の学習内容や生徒の実態を的確に把握することで、**授業改善に生かす**ことができた！

交流授業をとおして、高校生としての**ロールモデル**を中学生に見せることができた！

- ・中学3年生と高校1年生を中心に教員の相互乗り入れによる授業を実施。また中学校において**高等学校の生徒が学習内容を教えたり、紹介したりするなどロールモデル**を提示。
- ・中高合同で学校行事、生徒会活動、部活動などを実施。
- ・中・高教員**合同の「教科部会」**等を設置し、研修、情報交換、授業研究等を実施。

中・高生徒が合同で行う行事において、高校生に中学生の模範であるべきという意識が働き、**自らの役割に対する責任感と積極性の高揚**がみられた！

高等学校

中・高教員の教科ごとの研究会等を通じて、「**つなぎ教材**」や6年間を見通した**学習指導案**を作成し、**学力向上の取組に活かす**ことができた！

参考・広島県教育委員会HP
「**広島県教育資料第4章 学校経営改革の推進**」

発行 伊丹市立総合教育センター
所在地 〒664-0898 伊丹市千僧1丁目1番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日 月・火・木・金 : 9:00~21:00
水・土 : 9:00~17:00
休館日 日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP <http://www.itamied.jp/>

<教育相談>
電話 072-772-6171 (電話相談)
072-780-2484 (来所相談)
お子様に関する様々な悩みや課題、
問題等の相談に応じています。
(来所・電話相談)
月・火・木・金 : 9:00~18:00
水・土 : 9:00~17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます

